

水害時の行動計画を立てましょう。

水害は地震とは違い事前に予測できる災害です。

避難の判断に必要な情報について知り、いつ・どの情報をきっかけに避難を始めるか、事前に決めておきましょう。

浸水したときの注意点

道路脇の側溝や段差、開いたマンホールのふたなどは、浸水すると見えなくなってしまう。冠水している道を通っての避難は、できるだけやめましょう。



運動靴をはく

長靴は水が入ってきて歩きにくく危険。裸足も禁物。ひもでしめることができ脱げにくい運動靴をはきましょう。



和光市版
マイ・
タイム
ライン



どのような情報を集めて、何をきっかけに避難するか計画を立てましょう。

避難する

雨や川 の状況	(1日前)大雨の可能性が高くなる ▶ (半日前)雨が降り始める ▶		雨が強さを増す ・川の水がどんどん増えている ▶ (4時間前)大雨となる ▶		大雨が一層激しくなる ・川の水がいっぱいであふれそう ▶		広い範囲で数十年に一度の大雨 ・川の水があふれる		
	雨風が強くなることに備えて、気象情報等を確認する時期			危なくなる前に避難行動を開始するとき			身の安全を確保すべき時期		
防災 気象情報 (気象庁)	大雨浸水	大雨注意報	大雨警報	大雨危険警報	大雨特別警報				
	河川氾濫	氾濫注意報	氾濫警報	氾濫危険警報	氾濫特別警報				
	土砂災害	土砂災害注意報	土砂災害警報	土砂災害危険警報	土砂災害特別警報				
指定河川 洪水予報 (河川管理者、 気象庁)	「〇〇川氾濫××情報」として発表される		氾濫警戒情報	氾濫危険情報	氾濫発生情報				
避難情報 (市)			高齢者等避難	避難指示	緊急安全確保				
主な備え	<p>いっどんなことをしたら良いか記入しよう</p> <p>例：飛ばされそうなものの片付け、土のう、止水板を準備しておく</p> <p>携帯電話の充電</p> <p>川の水位をインターネットなどで確認 土のう、止水板を設置する</p>			<p>避難しやすい服装に着替える</p> <p>指定避難所への避難を完了</p>			<p>自宅にとどまる場合は 外出せずに在宅避難を継続</p>		

天気が荒れそうなときは情報に注意する

どのように避難するかを判断する

在宅避難

立退き避難
指定緊急避難場所等

立退き避難
近くの安全な場所

屋内安全確保
2階以上

記入例はこちら→

※市は気象状況、地域特性をもとに、避難情報を発令する判断を行うことから、防災気象情報と避難情報が必ずしも同時に発令されるわけではありません。

防災気象情報を参考にしながら、市が発令する避難情報を確認し、適切な避難行動をとってください。

いつ避難するかの
判断材料に

市が出す
避難情報

警戒レベル2: 注意報

土のうや止水板の備え
自宅に浸水リスクがある場合は、あらかじめ土のうや止水板を備えておきましょう。

警戒レベル3: 高齢者等避難

**危険な場所から
高齢者等は避難!**
高齢の方、障害のある方、乳幼児などその支援者は避難を開始しましょう。

**その他の方は、いつでも避難
できるよう準備してください。**
避難の準備を整え「防災気象情報」や「水位情報」等に注意し、危険だと思ったら早めに避難をしてください。

警戒レベル4: 避難指示

危険な場所から全員避難! ▶ P23のチェックリストで想定した避難場所で安全を確保しましょう。
避難場所への移動が危険な場合は「近くの安全な場所」か「自宅内のより安全な場所」へ避難を。想定される浸水が浅い場合、建物の上階への避難や、高層階に留まる屋内安全確保も有効です。
※急激な水位の上昇のおそれがある川沿いや、土砂災害特別警戒区域等の居住者の方は早めの避難を。

警戒レベル5: 緊急安全確保

**命を守るための
最善の行動を
とってください。**
既に災害が発生している状況です。